



がくじ



摂南大学図書館報

No. 58

1999.6

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説まばしよるこからずや—

*題字は王羲之の書による

青春時代に読んだ本

なか ぎり だい じゅ
経営情報学部 教授 中 桐 大 壽



今日、情報化、国際化社会の中で様々な本が世の中に出ています。

専門（書、誌）、小説（歴史、恋愛、企業、ビジネス）、エッセイ、文庫本、単行本など沢山あります。本との出会いは、一期一会であります。今までの自分を変えてしまうような本があります。本を読んでいくうちに人生観や人間観が変わったり、宇宙観や社会観も形成されます。

思えば、私は物心ついた時にはロビンソン・クルーソーに惹かれ、中学・高校生のころにはシュバイツァー、ルイ・パスツールなど医学者の本を読んだものです。そして、青春時代には、歴史小説とりわけ司馬遼太郎氏「竜馬が行く」、「坂の上の雲」、「花神」、などが好きで、主人公の縦横な機知とユーモア、勇猛果敢な戦術と戦略、行動、努力、創意工夫に触れるたびに新しい世界が眼前に浮かび、しばし英雄伝にのめりこんだもの

です。その時、色々な歴史上の事件を振り返って、もしあの時違う展開や事態になっていればと、楽しく空想した思い出があります。

人は、一回しか人生を過ごす事が出来ません。しかし、読書は読んだ本の数だけ別の人生が体験出来るし、冒険や恋愛も疑似体験出来ます。また、読書によって、人はどのような時に怒ったり、喜んだりするのか、あるいは感動するのかという心の機敏性を自然につかみとることも出来ます。

本は、たった一回の人生を二倍にも三倍にもしてくれます。

今後、情報通信とデジタル技術の進展とともに、読書の形は様々に変化していくでしょう。しかし、青春時代に読んだ本からの影響は誠に多大であり、はかりしれない喜びがあります。

是非、本との出会いを大切にしてください。

～ 目 次 ～

青春時代に読んだ本（中桐大壽）……………	1	図書館利用統計（1998年度）……………	6, 7
ヘルシンキでの図書館生活（遠藤美奈）…	2, 3	おすすめの新着資料……………	8
SCHOLAR'S SHELF 紹介……………	4, 5	前期休日開館日程……………	8

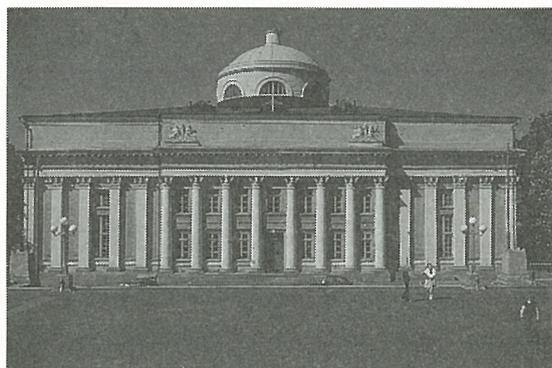
ヘルシンキでの図書館生活

法学部 講師 えん どう み な
遠 藤 美 奈



北欧フィンランドの首都にある、ヘルシンキ大学法学部での私の留学生活は、1994年夏に始まった。短く美しい夏はダメ押しの語学研修に暮れ、9月になるとマフラーをした人々を街で見かけるようになった。大学では新年度が始まった。図書館とは切っても切れない生活が始まったのである。

●ヘルシンキ大学中央図書館



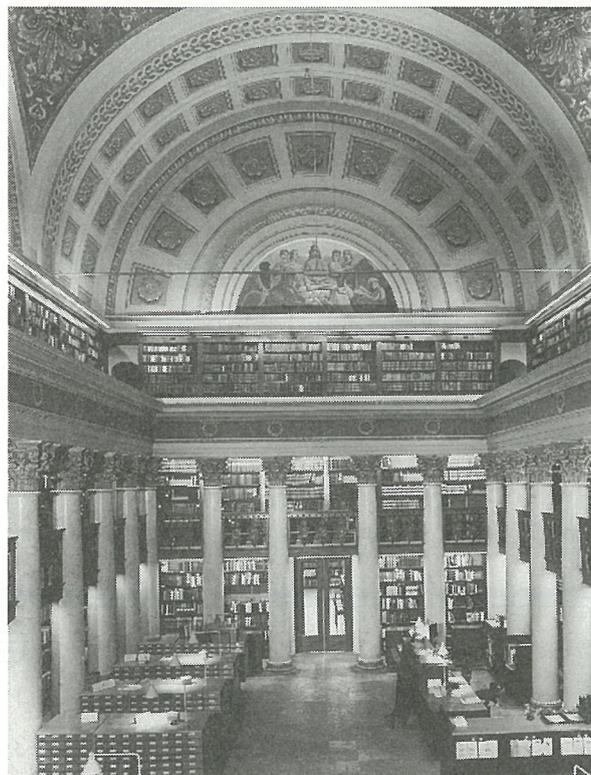
▲ ヘルシンキ大学中央図書館

ヘルシンキ大学には、中央図書館のほか各学部・学科図書館、学内各研究所の付設図書館、学生図書館などがある。その中でも中央図書館は、私がかつともよく利用した図書館である。1844年に完成し、150年以上の歴史を持つ中央図書館は、19世紀フィンランドを代表する建築家、C. L. エンゲル（1778-1840）の設計による建築物で、その作品の中でも、最も洗練されたものといわれている。中に入ってゲストブックにサインをすれば、だれでも入館できる。館内の中央ホールは、この建物の最も美しい部屋である。ここは3階までの吹き抜けになっている。白い柱の中段に2階部分の、さらに柱の上部に3階部分の廊下がしつらえられているのが写真でもわかるだろう。この廊下のあちこちに古ぼけた木の椅子と机が置かれていて、壁沿いに配架されている雑誌を読むことができる。1階ではインフォメーション・デスクで本について相談したり、図書目録や蔵書カード、そ

してコンピュータによる蔵書検索ができる。写真右手のインフォメーション・デスク手前をさらに右に行くと書庫入口がある。

写真中央の両開きの扉をはいったところが閲覧室である。留学時代のずいぶん長い時間を、私はそこで過ごした。この閲覧室の四方の壁が、日本語を含むさまざまな言語の辞書、百科事典、人名録などで埋められていて、手強い本を読むにはうってつけの場所だったからである。わからない言葉が出てきても、ここにいれば途方に暮れずに済んだ。中央ホールと同じように吹き抜けになっている閲覧室の2階廊下には、議会の議事録、法令集、判例集などがあり、ゼミ発表のたびに分厚い冊子を1階の机へ運んだ。

夏の閲覧室は沈まない陽の光のおかげで雨でも降らないかぎり明るい。通常の閉館時間は午後8時だが、夏期は夕方5時で、閉館15分前のベルに



▲ 中央図書館中央ホール

追われて退館しても館外は真っ昼間である。それから近くの海に泳ぎに行っても明るいうちに帰宅できてしまう。秋から春にかけては、それと対照的である。真冬になると、暗いうちに家を出て、大学で午後のコーヒーを飲んでいると窓の外が蒼くしずんでいく、という日が続く。人々の口数も少なくなる。そんな季節の閲覧室は暗い。3階天井部には、閲覧室全体をてらす照明はない。本を読むための灯りは、机上の電気スタンドだけである。暗い閲覧室はひっそりとして、頁を繰る音だけが天井に響いていた記憶がある。ひと息つきたいときには、地下のコーヒーショップへ降りていった。そこは上の階と違って天井が低く、明るい小じんまりした場所である。テーブルが花で彩られたこの店のファンは多く、私も勉強や授業の合間に、友達としばしのおしゃべりを楽しんだ。話題は、それぞれの悩みや希望、勉強の進み具合、自分の国のこと、休暇の計画と、尽きることがなかった。

●試験と不況と図書館

学生生活では、試験は避けて通れない。実習・演習以外の科目の試験範囲は書籍名と頁数で指定される。単位数の多い科目になると、いきおい試験範囲も広くなる。「大きな試験」とは、試験範囲の総ページ数が多いということの意味する。ちなみに試験時間は原則として5時間であり、食糧が「持込可」とされているのも納得できるだろう。

試験範囲に指定された本は貸出用として全学部共通の学生図書館に複数冊所蔵されることになっている。科目によっては、学生図書館書架に同じ本が10冊以上ならんでいることもある。数年前の同大学法学部シラバスには次のように書かれている。「最近では試験範囲に指定された書籍を自分用に購入することは非常に少なくなってきました。多くの学生にとって、それは経済的に不可能です。たしかに、辞書や参考図書など、使用頻度の高い必要な基礎文献なら、購入するのが合理的でしょう。しかし試験用の書籍、普通なら1回で済んでしまう試験の準備に必要な本なら、図書館で調達することをすすめます」（『ヘルシンキ大学法学部1995 — 1996年度版履修ガイド』より）。この一節と学生図書室の存在は、留学当初の私をおどろかせた。しかしよくよく考えてみたら、人口500

万人という小さな国の、しかも独特の言語で書かれるのでは、出版物にスケールメリットというものは存在しない。薄い本でも高くなるのは当然である。卒業までにはかなりの数の本を読まなければならないのだから、すべての本を自分で購入するのはどだい無理な話、ということになるのである。そのうえ90年代初頭のフィンランドは、失業率20%を超える未曾有の不況に見舞われていた。最大の輸出相手国であったソ連の政治変動と崩壊で、経済に大打撃を被ったのだった。初めてフィンランドを訪れた92年、法学部図書館をのぞいたときに、外国雑誌の多くが「購読中止」になっていたことに驚いた記憶がある。大学も経費削減で、その夏は学籍登録事務所を閉鎖したりしていた。幸いに留学期間が終わりに近づくにつれ、フィンランドの景気は徐々に回復し、EU加盟も実現した。私が帰国するときは職探しに奔走していたゼミの仲間たちも、昨年までに皆なんらかの職に就いた。負担増に持ちこたえられるようになったのであろうか、図書館の開館時間も1時間延長された。そしてシラバス中のくだんの一節も、いつの間にか姿を消したのである。

2年間の留学を終えて帰国してからは、明るい閲覧室と研究室で飲むコーヒーという「なつかしい日常」が帰ってきた。今はときどき、天井に少し重い空気の層を湛えた暗い閲覧室とコーヒーショップでのおしゃべりをなつかしく思ったりする。それは、北の国で過ごした時期の、心ゆたかな一場面であった。

(写真提供：フィンランド大使館)



SCHOLAR'S SHELF 紹介

(本学教員寄贈著書コーナー)

新たに開設されたコーナー“Scholar's Shelf”には先生方から寄贈された、先生ご自身の著書が集められています。皆さん方の先生がどのような本を著しておられるのか、ご覧のうえ学習に役立ててください。('99. 6. 1 現在)

総長・理事長

著者	書名	出版社
藤田 進	経済成長と格差問題	新政経研究会
	基幹産業社会化の動向	東洋経済新報社
	日本経済の展望と福祉	新政経研究会
	国政のウラオモテ・国会30年の藤田進	国政のウラオモテ・国会30年の藤田進刊行委員会

工学部

著者	書名	出版社
井上 治	例題解説 構造力学	理工図書
	土木施工法	朝倉書店
今井弘之	詳解 制御工学演習	共立出版
大村 勝	機械加工学	文理閣
小川英一	エース電磁気学	朝倉書店
金子光美	生活排水処理システム	技法堂出版
	水の消毒	日本環境整備教育センター
黒澤敏郎	新編 生産管理システム	共立出版
小島敏彦	総比較モチベーションマネジメント百科	日刊工業新聞
	新製品開発管理	日刊工業新聞
	原価管理	日刊工業新聞
末田 正	Ultrafast and Ultra-parallel Optoelectronics	Ohmsha John Wiley
	超高速光エレクトロニクス	丸善
	光エレクトロニクス	昭光堂
	光エレクトロニクス入門	丸善
鈴木 胖(編)	リサイクル工学	エネルギー・資源学会
	エネルギー貯蔵システム	エネルギー・資源学会
升田公三(編)	ENERGY AND CHARGE TRANSFER IN ORGANIC SEMICONDUCTORS	PLENUM Pub
平城弘一	頭付きスタッドの静的および疲労強度設計法に関する研究	(著者)
安田 孝	大都市における中高層集合住宅街の形成と居住地構造の容容に関する基礎的研究	(著者)
	郊外住宅の形成	INAX出版

国際言語文化学部

著者	書名	出版社
赤松みのり	留学生用日本語教材 [I]	摂南大学国際言語文化学部
安藤哲行	モダニズムの研究	現代企画室
	(訳) 夜になるまえに	国書刊行会
	(訳) ラテンアメリカ 五人集	集英社
	(訳) 老いぼれグリーンゴ	集英社
	(訳) アウラ	エディシオンアルシーヴ
(訳) ボマルツォ公の回想	集英社	
(訳) 私が愛したグリーンゴ	集英社	
(訳) ママ・グランデの葬儀	図書刊行会	
(訳) 天使の恥部	図書刊行会	
(訳) 陽がかよう迷宮	現代企画室	
(訳) メドゥーサの血	まろうど社	
猪岡 武	障害児理解と指導の基本	第一法規
	教育原理	日本肢体
	(編) 障害児臨床学	福村出版
(編) 障害児教育の理論と展開	第一法規	
岩田典子	エミリ・デイキンソンを讀む	思潮社
岩間 香	寛永文化のネットワーク	思文閣
浦野崇央(編)	土屋健治・インドネシア研究の足跡	刀水書房
穴戸通庸	コミュニケーションの構図	みらい
	言語学習ストラテジー	凡人社
	(訳) 文法上のジェンダー	青山社
芝垣哲夫	文化の表層と深層	創元社
	英語とその社会的背景	旺史社
(訳) 続悪魔の詩	泉屋書店	
篠原愛人(訳)	月のうさぎ	文化科学高等研究院出版局
	(訳) 神々とのたたかい [I]	岩波書店
	(訳) 大航海の時代	同分館
瀬戸 宏	中国の同時代演劇	好文出版
	中国演劇の二十世紀	東方書店
	(編) 阪神大震災は演劇を変えるか	晩成書房
(編) 南河内万歳一座中国を行く	日中演劇交流話劇人社	

著者	書名	出版社
武吉次朗(訳)	大破産中国の国有企業改革	東方書店
	中国の出稼ぎ熱と そのゆくえ 一盲流一	東方書店
	現代中国30章	大修館書店
高島邦子	20世紀アメリカ演劇	図書刊行会
	エドワード・オールビーの演劇 あぼろん社	
	20世紀アメリカ演劇	図書刊行会
	アメリカ演劇研究	図書刊行会
谷口義介	歴史の霧の中から	葦書房
	北近江の遺跡	サンプライト出版
	中国古代社会史研究	朋友書店
美川 圭	院政の研究	臨川書店
山本淳一(訳)	世界周航記	岩波書店
(訳)	交換のはたらき 1	みすず書房
(訳)	交換のはたらき 2	みすず書房
兪 鳴蒙	中国への道	弘毅書林
吉田晴世	はじめてのCAI	山口書店
依田千百子・ 中西正樹	金徳順昔話集	三弥井肆
依田千百子	朝鮮民俗文化の研究	瑠璃書房
	朝鮮神話伝承の研究	瑠璃書房
(訳) 任東権	韓国の民俗と伝承	桜楓社
渡邊久義	イエイツ	あぼろん社
	イエイツの世界	山口書店
	意識の再編	剋草書房

経営情報学部

著者	書名	出版社
岡田 定	効果のみえる 情報システム	共立出版
	情報投資の経営的価値	同分館
神野慧一郎(訳)	経験的知識の基礎	剋草書房
(訳)	知識の哲学	白水社
(編)	現代哲学のバックボーン	剋草書房
	論理学 — モデル理論と 歴史的背景	ミネルヴァ書房
	ヒューム研究	ミネルヴァ書房
栗山仙之助	総合経営情報 システム研究	日本経営協会 総合研究所
瀬尾芙巴子	思考の技術	有斐閣
	MULTIPLU CRITERIA DECISION ANALYSIS IN REGIONAL PLANNING	D. REIDEL PUBLISHING COMPANY
松谷靖二	要説 企業簿記	中央経済社

薬学部

著者	書名	出版社
相本太刀夫(訳)	薬物代謝学 (新版)	講談社
熊懷稜丸(訳)	理論有機化学	南江堂
	基礎有機化学 (改訂第3版)	南江堂
	フッ素薬学: 基礎と実験	南江堂
	有機化学の基礎づくり : 反応の見方・考え方	化学同人
宮田秀明	よくわかるダイオキシン 汚染: 人体と環境を破壊 する猛毒化学物質	合同出版
	STOP! 食品母乳の ダイオキシン汚染	食べもの通信社
	ダイオキシン	岩波書店
	宮田秀明の「ダイオキシ ン」問題Q & A: みんな で学ぶ基礎知識	合同出版
(監)	猛毒ダイオキシンから 子どもを守る100の知恵	主婦の友社
(監)	ダイオキシンから 身を守る法	成星出版
吉岡正則	分析化学実験入門: バイオ サイエンス (第2版)	廣川書店
	Supercritical Fluid Chromatography and Micro-HPLC	VSP
(編)	わかりやすい分析化学入門 (第2版)	廣川書店

法学部

著者	書名	出版社
大野眞義	演習 刑法各論	晃洋書房
	演習 刑法各論 (二訂増補)	嵯峨野書院
	罪刑法定主義	世界思想社
	現代医療と医事法制	世界思想社
	要説 刑法総論	嵯峨野書院
(編)	要説 刑法総論 (二訂版)	嵯峨野書院
(編)	医療関係者法学	世界思想社
(編)	法律用語を学ぶ人のために	世界思想社
大武泰南	証券取引法読本	有斐閣
郷原資亮	海運の法理と実務	近藤記念海事財団
光藤景皎	口述 刑事訴訟法 上	成文堂
	口述 刑事訴訟法 中	成文堂
	警察法入門 市民警察とは何か	有斐閣
	増補 刑事訴訟法	青林書院新社
	刑事訴訟法 I	日本評論社
	刑事訴訟法 II	日本評論社
(編)	ワークブック刑事訴訟法	有斐閣
(編)	事実誤認と救済	日本評論社
三成 美保	「法制史入門」	ナカニシヤ出版
芳野 勝(編)	教育人のための法学	世界思想社

図書館利用統計（1998年度）

図書館では、利用者の動向を把握し、図書館運営の参考にするため、毎年利用状況を集計し、各種統計を作成しています。

ここでは、主として学生利用者に関するデータを紹介します。

1. 利用状況総括データ

<総括表>

() の数字は前年度比

館 項目	本館	分館	計
開館日数	271日 (+3)	278日 (+7)	——
入館者数	273,050 (+40,982)	163,874 (-14,460)	436,924 (+26,522)
貸出者数 (学生)	18,857 (-227)	3,584 (+168)	22,441 (-59)
貸出冊数 (学生)	38,018 (-333)	6,526 (+385)	44,544 (+52)

(注) 本館入館者数には閲覧室(3F)利用者は含まれていません。

開館日数は本館・分館とも増加しています。本館が増加したのは、棚卸を開館しながら実施したためです。分館は前年度のように書架工事がなかったため、休日開館分がそのまま増加日数となりました。

入館者数は本館で大きく増加しています。これは、新入生を中心とした利用増で、ガイダンスやライブラリーツアーの内容を充実させた効果があらわれたようです。また、一時期入館システムを変更したことも影響しています。分館で減少しているのは、レポート課題の頻度、前期期末試験実施時期の変更、後期試験終了後の開館時間の短縮などの要因が考えられますが、勉強意欲が下がってきているのではないかと懸念があります。

貸出者数は本館で1.2%減、分館で4.9%増、貸出冊数は本館で0.9%減、分館で6.3%増でした。どちらも、両館あわせるとほぼ前年度並みといったところです。

2. 所属別貸出状況

所属別貸出状況では、工学と薬学で増加、国際と法学で減少、経情と大学院は横ばいとなっています。

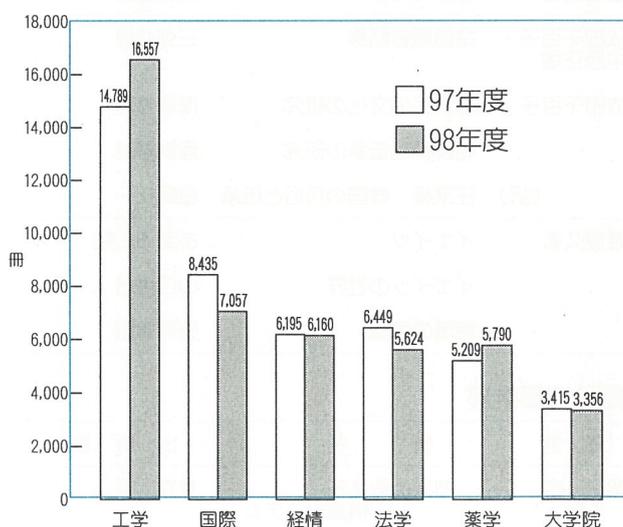
一人あたり貸出冊数では、学部の最高が薬学の

6.3冊、最低が経情の3.1冊、学部の平均が5.2冊となりました。大学院生は21.0冊と少し増えました。全体平均は5.5冊で前年より0.2ポイント減少しました。

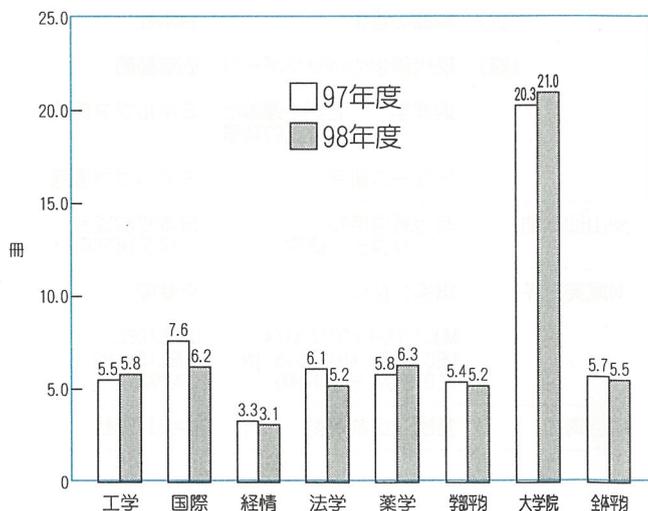
ちなみに、全国の国公立大平均は9.3冊、同私大平均は7.1冊、関西大手私大平均は8.6冊でした。

(注：他大学等の数値は「日本の図書館'98」から独自に算出)

学部別貸出冊数



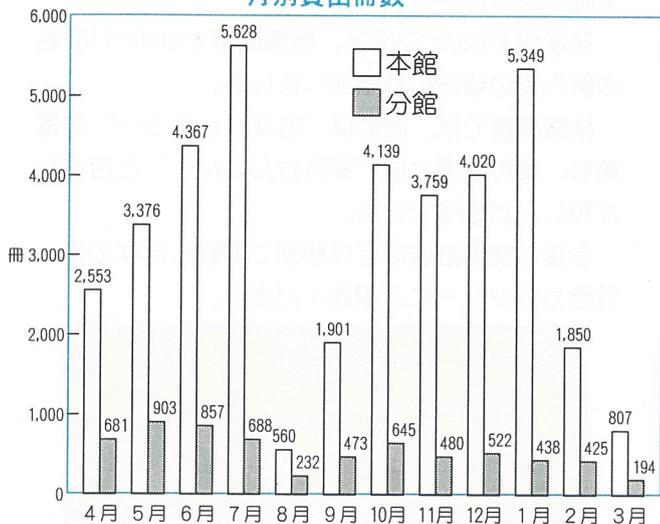
学部別1人当り貸出冊数



3. 月別貸出冊数

前期試験の実施時期が9月から7月に変更されたのに伴い、本館の7月の利用が大きく増加しています。本館は1月もよく利用されており、例年どおり試験期の利用が多くなっています。分館は年間を通じてコンスタントに利用されており、試験期の7月、1月の利用は少なくなっています。

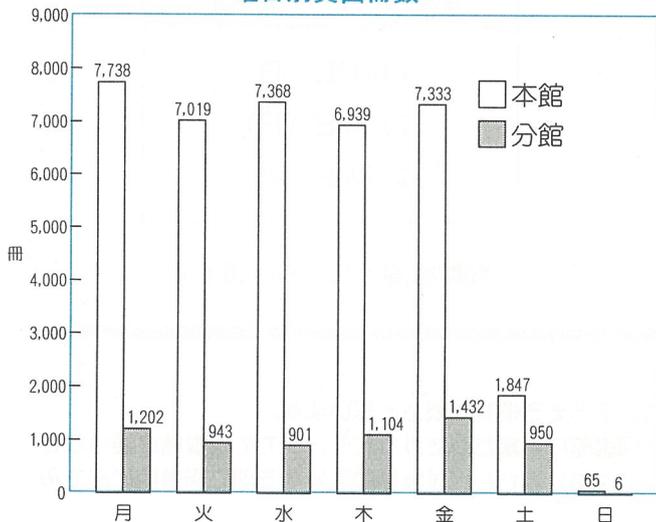
月別貸出冊数



4. 曜日別貸出

本館・分館とも一週間を通じコンスタントに利用されています。前年度に比べると、本館で金曜の利用が減り、水曜の利用が多くなっています。両館とも、土曜日の利用が3年連続で伸びています。

曜日別貸出冊数



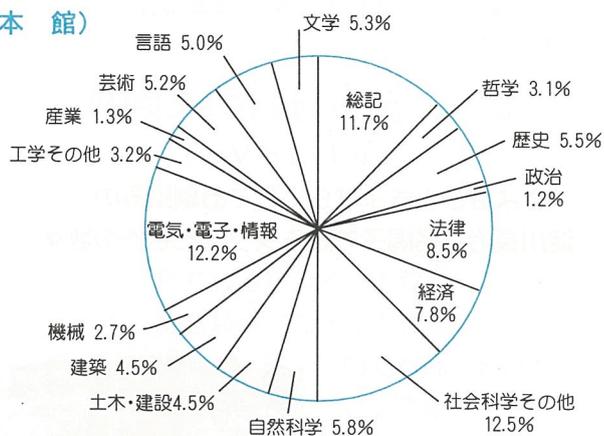
5. 分類別貸出冊数

本館・分館とも利用者の所属学部構成を反映し、はぼ例年どおりの分類別貸出比率となっています。

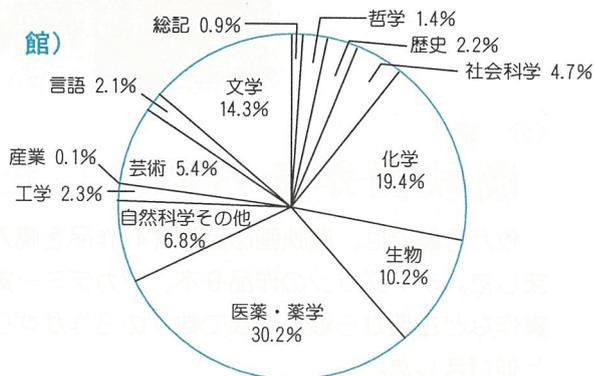
前年度と比較し、本館では「法律」が微増、「言語・文学」が微減となっています。分館では、「医学・薬学」が比率を減らし、「自然科学その他」「文学」が増やしています。

分類別貸出冊数比率

(本館)



(分館)



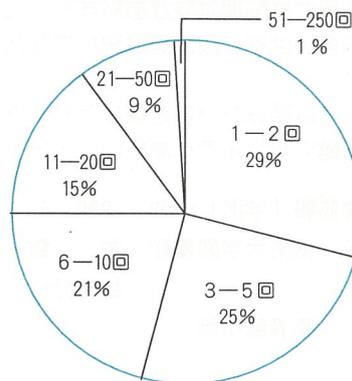
6. 回数別貸出者数

図書を借りたことのある人は全体の57%、一度も借りたことのない人は43%でした。借りたことのある人の比率が前年度より2%増加しています。99年度はこの比率がもっと増加してほしいと思います。

図書を借りたことのある人の中では、本館・分館とも利用が5回までの人で半数を超えています。貸出回数10回まででほぼ全体の4分の3になります。非常によく図書を借りているといえるのは全体の10%程度にすぎません。この傾向は前年度とほぼ同じです。

貸出回数の最も多い記録は本館では237回(昨年度148回)、分館では99回(同98回)となり、特に本館で数字が伸びています。

回数別貸出者数比率



おすすめの新书推荐～

〈本館〉

ビデオ 淀川長治映画館

Vol.1～Vol.3

“さよなら！さよなら！”でお馴染みの
淀川長治が名調子で語るスターと名作の数々

Vol.1 私がホントに好きなスター

Vol.2 私がホントに好きな監督

Vol.3 私だけの
チャップリン



〈分館〉

劇映画がそろいました！

枚方分館では、劇映画のビデオ47作品を購入しました。チャップリンの作品9本、アカデミー賞受賞作など古典から最近作まで数々の名作がずらりと並びました。

チャップリンの作品は所蔵のものと合わせ主要作がほぼ揃いましたので、この機会にまとめて見てください。チャップリンの映画芸術が堪能できるように。

他に、「炎のランナー」「屋根の上のバイオリン弾き」、「薔薇の名前」「ベニスに死す」「追憶」をおすすめしますが、「ニュー・シネマ・パラダイス」「さらば、わが愛 霸王別姫」「ウエールズの山」もぜひご覧ください。また、日本映画「月光の夏」は反戦映画の佳作といえるでしょう。今後も、科学・劇映画などのビデオを充実させていく予定です。

新入生対象図書館見学会および 所蔵検索講習会実施！

図書館見学会は

4月8日～10日の3日間

所蔵検索講習会は

4月8日～9日の2日間で1日4回

実施しました。

見学会ではのべ368名、検索講習ではのべ167名の
新入生の皆さんが参加しました。

検索講習では、始めは“おずかしそう～”の言葉も、
終わり頃には“案外かんたん！”と皆さん、
が親しんだ様子でした。

今後も使用方法などは個別で講習しますので、
各階カウンターにご相談ください。



《前期休日開館日程》

図書館では皆さんのご要望に応え、前期期末試験期における休日開館を行います。実施日は下記のとおり。

寝屋川本館・枚方分館	
7月11日(日)	
7月18日(日)	
7月20日(祝)	

開館時間：10：30～16：50

編集後記

・新入生の皆さんは大学生活に、在校生の皆さんは新学年に、そろそろ慣れた頃だと思います。そして、7月には前期試験があります。この時期になると図書館に無縁だったけれども、慌てて図書館に通うことになる人も多はず。図書館は決して堅苦しいことばかりではありません。試験期の混雑する前に図書館に来てみませんか？

カウンターでは読みたい本を探したり、気楽に相談に応じています。ぜひ、図書館に親しんでください。・・・・・・ K. M